

(様式3)

農業研究成果情報

No. 844 (平成30年5月) 分類コード 01-09 熊本県農林水産部

加温栽培における亜熱帯果樹ライチの早生系品種の特性

亜熱帯果樹ライチの早生系品種のうち「三月紅」は外観・食味が良い、「玉荷包」は豊産性で食味が非常に良い、「ホンフェイ」は外観・食味が良い、「篤姫」は1房当たりの着果数が多く豊産性である。

農業研究センター天草農業研究所 (担当者: 山添純歌)

研究のねらい

天草地域において、ライチは夏場の特色ある果物として観光との組み合わせで有望視されるが、その品種特性などは明らかになっていない。

そこで、ライチの早生系品種について、加温ハウスのポット栽培での品種特性を明らかにする。

研究の成果

1. 4月初めから開花し、収穫期は7月中旬から8月上旬で、成熟日数は「三月紅」は105日、「玉荷包」「ホンフェイ」「篤姫」は約120日である。
2. 「三月紅」は、果皮色が鮮やかな桃色で、1果重は約23g、糖度は19、酸含量は0.28mg/100mlである。出蕾枝数当たりの着果枝数が多いため収量性は高い。
3. 「玉荷包」は、果皮色が濃い桃色で、1果重は26gで大きく、不受精の種子が多ため果肉歩合が高い。糖度は20、酸含量は0.20 mg/100mlである。枝の発生は粗であるが、出蕾率が高く結実もよいため収量性は高い。果皮の着色が進むと糖度が下がっていくため皮色3分程度が収穫適期である。
4. 「ホンフェイ」は、果皮色が濃い桃色で、1果重は約23g、糖度は19、酸含量は0.27 mg/100mlである。出蕾率はやや高く、出蕾枝数当たりの着果枝数が多いため収量性は高い。
5. 「篤姫」は、果皮色が鮮やかな桃色で、1果重は約19g、糖度は19、酸含量は0.33 mg/100mlではやや酸味感じる。樹勢が強く枝が旺盛に伸び、枝の発生はやや粗であるが、花房が大きく1房当たりの着果数が多いため収量性は高い。

普及上の留意点

1. 本試験は11月下旬から4月まで最低温度を8℃に設定したハウス内で、90リットルポットに植栽した樹を用いた。開花期には受粉のためにミツバチを放飼した。
2. ライチは、カミキリムシの加害により枯死することがあるため注意する。また、カイガラムシやアブラムシが寄生した枝は弱くなり、着花しにくくなるため防除を行う。
3. 花粉が水に濡れると発芽能力がなくなるため、開花期の散水や防除は行わない。
4. ライチは、収穫後乾燥すると果皮が褐変し硬くなるので、乾燥を避けて低温で保管する。

表1 早生系統ライチの加温ポット栽培における開花および収穫時期

品種	開花始め	収穫始め	収穫盛期	収穫終期	成熟日数 (日)	収穫期間 (日)
「三月紅」 (サンゲツコウ)	4月10日	7月9日	7月25日	8月1日	105	22
「玉荷包」 (キョウカホウ)	4月1日	7月12日	8月2日	8月2日	123	23
「ホンフェイ」	4月11日	7月21日	8月4日	8月5日	115	29
「篤姫」 (アツヒメ)	4月1日	7月12日	7月26日	7月31日	116	20

注1)各品種2~3樹、2015年~2017年の平均

注2)成熟日数は開花はじめから収穫盛期までの期間

注3)収穫始めは、果実全体が明るい紅色に着色した果実が全体の1割程度になった時期。
ただし「玉荷包」は3分着色の時期。

表2 早生系統ライチの加温ポット栽培における収穫量と果実品質

品種	樹齢	樹容積 (m ³)	収穫量 (g/樹)	1果重 (g)	種子重 (g)	果肉歩合 (%)	糖度 (Brix)	酸含量 (mg/100ml)
「三月紅」	5年生	3.0	2,098	23.2	2.4	70.5	18.6	0.28
「玉荷包」	5年生	2.4	2,931	25.9	0.7	77.3	19.8	0.21
「ホンフェイ」	5年生	3.1	1,929	22.8	2.8	72.8	18.6	0.27
「篤姫」	8年生	2.7	1,489	19.0	3.1	65.5	18.8	0.33

注1)各品種2~3樹、2015年~2017年の平均

注2)樹齢は2015年時点

表3 早生系統ライチの品種特性

品種	果実外観	果実品質	出蕾率	収量性	隔年結果	総合評価
「三月紅」	○	○	○	○	○	○
「玉荷包」	△	◎	◎	○	○	◎
「ホンフェイ」	○	○	○	○	○	○
「篤姫」	○	△	○	○	○	○

注)評価は○:中、◎:良、△:やや不良で表記した。